

令和2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2771300346		
法人名	医療法人 桐葉会		
事業所名	グループホームコスモスガーデン		
サービス種類	地域密着型サービス		
所在地	大阪府貝塚市森853		
自己評価作成日	令和2年9月22日	評価結果市町村受理日	令和2年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設以来「利用者の個別性介護を大切にすることを目標」に運営してきました。個別の生活習慣を守るように、日常生活においても、就寝・起床時間などの規則はありません。食事作りでは苑内で野菜を利用者と育て収穫した野菜を使っています。職員は利用者の思いに寄り添いながら、関係を築く努力をしています。ご家族様にも、施設の行事に参加しやすいように工夫をしています。また、認知症についても外部研修を含め施設内でも適宜行って参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長い歴史を持つ医療法人が運営している2ユニットのグループホームです。近くに同法人運営の介護老人保健施設、医療機関があり、連携した運営を進めています。4つの介護理念を基本に「自分らしくいきいきと過ごせるように」との考えで、自宅のようにリラックスできる雰囲気大切にしています。リビングに置かれた大きなテーブルの上には花を飾り、果物等を置いて自由に食べることができる家庭的な環境です。理事長の「職員の職場環境整備はサービス向上に繋がる」との考えは、職員の定着にも繋がっています。日中、玄関やエレベーターは開放し「利用者の行動を制しない」という設立時からの精神は、職員に引き継がれています。3食手作りの食事利用者に喜ばれ、夕食後にはティータイムを設け、利用者と職員が話をしながら過ごす時間です。母体からの医療面での支援も充実しており、利用者・家族の安心に繋がっています。「まだ人のために役だっていると思うことができる環境を提供する」を介護理念のひとつに掲げ、「何事も共にする」考えを大切にし、利用者に役割をもってもらう支援を実践しています。職員間のチームワークもよく、利用者や職員がもうひとつの家族のように寄り添い、利用者中心の笑い声が聞こえてくるグループホームです。

【事業所基本情報(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)】

http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoSyCd=2771300346-Q0&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪
所在地	大阪府大阪市東成区中道3-2-34(JAM森の宮事務所2F)
訪問調査日	令和2年10月29日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果(あさがお)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく暮らすことができる 4つの介護理念を確立している。 職員が行ったサービスで理念の何に当たるかカンファレンスや機会があれば話し合いをしている。	「私たちは、1. 今までの生活リズムを守ることができる環境を提供する。 2. まだ人のために役立っていると思うことができる環境を提供する。 3. わがままを言えることができる環境を提供する。 4. その人らしく生きることができる環境を提供する。」の介護理念を掲げ、毎日の支援にあたっています。また、その人らしい暮らしの実現のために、様々な場面で個別ケアを大切にしています。利用者が毛筆で書いた介護理念を調度品のようにリビングに掲示しています。毎日の朝礼で介護理念の唱和を行い、職員間で理念の確認を行っています。	ホームが大切にし、職員が同じ目標で取り組んでいる理念です。家族の面会票入りに理念を紹介するカードをつける工夫はいかがでしょうか。 ホームの理念が家族や地域の住民により多く支持され、理解が得られることが期待されます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	スーパーへの買い物や気候が良い日は外への散歩にでかけたりし、自然な形で地域と交流するようにする。	ホーム開設以来、地域社会とつながりながら、利用者一人ひとりがその人らしく生き、継続した暮らしができるよう、環境を整備・提供することに力を入れています。新型コロナウイルス感染予防のため、現在は地域の行事はほぼ中止になっていますが、これまで様々な取り組みを行ってきました。近隣のスーパーや商店等への買い物や、ホーム周辺の散歩、地域清掃への参加等、利用者が日常的に地域と交流をする機会がありました。近隣小学校との毎年の交流会も実施していました。コロナの影響で延期になっていた認知症カフェも、市からの提案もありスタートする方向で考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のグループホームと協力して認知症を持つ家族参加の支援を行う場を設け、認知症の理解を働きかけたり、グループホームについて説明を行っている。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、利用者、民生委員、役所などから頂いた意見は常に前向きに検討し実施している。	運営規程を作り、2ヶ月に1回運営推進会議を開催しています。会議には、利用者・民生委員・市職員・地域包括支援センター職員等が参加しています。会議では、主にホームの状況、行事の内容等を報告、説明し、参加者から評価や助言を得て、ホームの運営に活かしています。事故や改善内容も報告し、参加者の意見を真摯に聞く姿勢を大切にしています。現在は、コロナ感染防止のために、資料を送付して意見を聞く形式で進めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居者の要望に応えるよう、特異な入居依頼があった時などは積極的に市町村担当者に連絡しサービスの向上に努めている。また、困った事例等あれば速やかに連絡相談をしている。	市関係部署の担当者とは、いつでも相談できる関係が築けています。介護老人保健施設等、施設での生活が困難になった方の申し込みは、断らないことを原則にしており、対応等は市関係者にも相談しながら進めています。市の事業者連絡会グループホーム部会にも参加し、情報の共有や連携に活かしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。職員が人的環境を整え緩和するよう努力している。	日中、玄関やエレベーターは開放し、設立時からの「利用者の行動を制止しない」という精神は、職員に引き継がれています。利用者が外出しそうな様子を察知したら、職員と一緒に外出するなど、自由な暮らしを支援しています。身体拘束委員会による身体拘束廃止に関する研修を年4回実施し、利用者の尊厳を守るケアの確認を行っています。言葉による行動制限のスピーチロックについても研修を実施し、アンケート形式で職員一人ひとり、振り返りを行いました。また管理者は勤務の休み希望や有給休暇取得への配慮、相談しやすい関係作り等、職員がストレスを溜めない職場環境の整備に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での介護行為に対して、定期的に検証し、カンファレンスで話し合っている。法人内の人権擁護研修会に参加している。		

己	部	外	項 目	自己評価		外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8			○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体をもって対応可能。研修参加も行って いる。家族からの相談があれば速やかに進め ていく体制は整えている。現在2名の方成年後 見人制度対象の方がいる。			
9			○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族 等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・ 納得を図っている	入居契約前に、本人・家族に施設を見学しても らい、サービスの内容・料金の説明をしたり疑 問や不安などがあれば話し合いを行い、納得し てから契約している。			
10	(6)		○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならび に外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映 させている	施設内には意見箱を設置し、無記名で投稿で きるようになっている。苦情を受けた時すぐに対 応できるように苦情受付書類を準備している。 問題点を明らかにしカンファレンス、申送りで周 知している。又、市町村にも報告を怠らないよう にしている。	家族の面会時には、その都度声掛けして、利用 者の状況を報告し、要望や意見を聞くようにして います。家族からの意見は、真摯に受けとめ、 サービスの改善に活かしています。連絡をする 時間が遅くなり心配をかけた反省から、家族へ の連絡時間の確認をし、サービスの改善に活か した事例があります。ホーム便り「ガーデンの四 季」は定期的に発行し、利用者の笑顔が溢れる 日常を分かりやすく掲載しています。 現在、コロナウイルス感染対策として、窓越しの 面会を余儀なくされていますが、利用者・家族に 安心してもらえ工夫を行っています。写真入り の手紙を本人に書いてもらって(書くことが困難 な利用者は職員が代筆)家族に送り、大変喜ば れました。リビングに設置している公衆電話か ら、家族に電話をかける利用者もあります。		
11	(7)		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案 を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全員出勤の勤務を組み、その時に業 務・介護ケアカンファレンスを実施している。そ の場では、職員が自由に発言できる環境を作 り、決まったことは全員で実行するようにして いる。	月に1回、職員全員が出席する会議で、研修、 業務カンファレンス、利用者一人ひとりのカン ファレンスを行っています。欠席する職員は、事 前にリーダーへ意見を伝えています。日常的に も意見が言いやすい雰囲気づくりを大切にしてい ます。理事長の「職員の職場環境整備はサービ ス向上に繋がる」との考えは、職員の定着にも繋 がっています。 法人のハラスメント委員会による職場環境の改 善取り組みも積極的で、職員が意見を言いやす い工夫がされています。		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護処遇改善に取り組み、給料水準の向上介護用具を購入し、職場環境を整え各自が向上心を持って働けるように努力している。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・法人外の研修に参加してもらっている。研修後に、報告書を出してもらっている。月1回のカンファレンスでは、書記を順番に回るようにしている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム・老健・支援事業所と定期的に会合の機会を持ち、意見交換をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症の程度によるが、施設見学、または、施設からサービス利用者先へ訪問するなどし、本人とゆっくりと面談するようにしている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とは見学に来た際や、相談を受けた時に困ったり、悩んだりしていることを受け止められるよう拝聴している。私たちが援助できることを具体的に説明している。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話を聞き、必要に応じて情報を提供している。対応できない時は、それぞれの専門職に協力を依頼し、サービスの提供に努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を置んだり、料理をしたり、共にするという意識している。職員は疑似家族として、入居者に尊敬の念を持って接している。		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会時、一緒に歌を歌ったり雑談をしながら入居者との時間を楽しく過ごせるように支援している。又近況を話しながら今後の方向性を話している。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・親戚・近所の方が面会に来た際は、お茶を出し、部屋でゆっくりと話などをし、過ごしてもらっている。	職員は、これまでの馴染みの関係を少しでも継続することが利用者にとって大切なことと理解し、支援に努めています。 入居前の近所の友達や、お花の教え子達の訪問を頻繁に受けたり、馴染みの美容院、理髪店、墓参りに行く利用者もいます。 モップ掛けや手すり拭き、食事の下ごしらえ等、利用者のできることを増やし、できる喜びを感じ、利用者が自信をもって暮らせる支援を管理者・職員が一丸となって実践しています。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の程度・性格・生活過程などを考慮し、スムーズに関わることができるよう支援している。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の医療機関などに入院しても必要に応じて家人と面会をし、方向性を話し合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活や話題の中で本人のニーズを見つけだすようにしている。又、家族との会話も大切にしている。得た情報を職員間で共有、ケアプランに反映している。	職員は利用者との何気ない会話や動作から本人の意向や要望を把握し、気づいた事や新しい発見は、記録に残し、職員間で共有しています。毎月の、会議では、利用者一人ひとりのカンファレンスを行い、各職員の気づきを出し合い検討課題の解決策を話し合っています。	

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族、サービス事業所から得た情報を考慮し、ケアプランを作成している。24時間の生活パターンを大切に介護サービスを提供している。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護スタッフは入居者の日々の状態を観察その中で、気付きや状態の変化を主治医、看護師、ケアマネを中心に情報収集し、観察項目を決定、ケアプランに反映している。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別介護実施表を作成し、ADLなどを観察し職員で共有している。日々観察、変更が可能な独自の介護サービス表を作ってケアに反映させている。	入居時、利用者や家族の意見・要望を基にカンファレンスを行い、介護計画を作成しています。3ヶ月毎の更新を基本としています。毎月の会議で、介護計画をもとにそれぞれ意見を出し合い、モニタリングをしています。カードインデックスを用いて介護計画の情報の共有を行っています。計画作成担当者は、「家族の意向と本人のできる事を尊重しながら作る介護計画」を心がけています。 「誰かの役にたっていると思わせてください」との家族の希望がある利用者の介護計画には、「お手伝いしていただいた時は必ず『ありがとうございます』『助かりました』など、感謝の声かけを行う」を援助内容としています。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「個人介護サービス表」「アセスメント」「介護記録』『カードックス』を使用し実践している。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の場合、原則は家族に行ってもらうのが基本だが、キーパーソンが海外出張や闘病中などの場合は、施設職員が同行し、援助している。		

己	自部外	項目	自己評価	
			実践状況	外部評価
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設が入居者の地元であるため、親戚・知人友人等が頻繁に面会に来ている。又、地域の小学校の交流イベントへ参加したり、関連施設の利用者との交流も支援している。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には1回/3~4w外来主治医に情報を提供し受診している。それ以外にも状態の変化があれば主治医に相談、往診、診察を受けている。専門的な治療が必要な時は、家族に連絡希望の病院を聞き対応している。	母体法人が病院を運営していることで外来主治医の往診有り医療連携体制をとっています。また主治医の指示のもと訪問リハビリも行っています。体調管理で状態変化等あれば主治医に報告、その都度家族にも報告して受診が必要な場合は対応もしています。看護師を常勤で配置し、医療連携も充実していることで、利用者・家族・職員の安心に繋がっています。入居前からの医療機関へも希望があれば継続して受診可能です。月1回、訪問歯科もあります。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しているので、気付いたことをその都度、報告・相談している。また、看護師は法人内施設の看護師と協同し利用者の健康管理にあたっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した時、入院先の主治医の所見、家族の意向等を確認し、退院後の方向性を決めている。また、医療機関と情報を交換したり、訪問したりその後の相談をしている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・外来主治医・看護師・ケアマネ・介護職員と、定期的に話し合い、将来的なことを含め方向性を出している。毎日の申送りや月1回のカンファレンスなど全員に周知している。希望があれば看取りの対応も実施している。今後は、終末期のあり方について、家族・本人の望む事にむきあえるよう職員教育をしていく必要がある。	今後、利用者の重度化やホームでの看取り希望が予想されます。研修や看取りケアに関するマニュアル整備、介護技術のレベルアップ等、看取りケア実施体制の整備が期待されます。マニュアル改定時には、これからの看取りの際、不安なこと・整備して欲しいこと等、職員間で意見を出し合い進めていかれてはいいかがでしょうか。

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、いつでも対応できるように提示している。緊急時は法人内医師や看護に相談できる仕組みがある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人の施設課の下、定期的に避難訓練を年2回とコスモスガーデン独自の災害訓練も適時実施している。連絡網を作成し、警察・消防署などとの連携を図りながら、利用者の安全を確保できるように努めている。	災害・緊急対応マニュアル及び夜間・休日火災発生時対応、また通報の連絡方法のマニュアルを作成しています。法人と合同の避難訓練、年2回とホーム独自の災害訓練も実施しています。2階部分はベランダが回路となっており避難用滑り台でスムーズに地上へ避難することができます。備蓄は平成30年9月台風時に断水・停電で体験を生かし、補充しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	指示的・命令的などの言動について、日常的に全職員意識しているが、時に利用者や家族からご指摘がある。その都度個人指導や全体指導を行っている。プライバシーの保護に関しても、申し送りやカンファレンスで周知している	カンファレンスの後で勉強会を実施しています。また申し送りノートでも気付きを記録して全員が目を通すようにしています。利用者や家族から指摘があったことで言葉かけの改善に繋がった事例もあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護理念に揚げ実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	介護理念に揚げ、入居者の24時間に職員が合わせ介護サービスを提供するように周知している。職員の都合や時間で介護しない様に指導している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人、家族の希望を聞き実践している。時には、家族に美容院などに連れてって下さるように声掛けしている。		

己	自部外	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理、後片付け、洗物など職員と入居者が一緒にすることを心がけている。食事の際も職員が入居者の間に入り楽しい雰囲気です。食事介助が必要な入居者もいるので、さりげなくサポートするようにしている。	調理専従の職員を配置し、3食ともホームで調理しています。献立を作成する際、利用者の好みを反映しながら法人の管理栄養士のアドバイスを受けています。調理時には利用者にもできることを促すことで満足感に繋がっています。調理をする際、昔取った杵柄で、思わず腕まくりして頑張る利用者もあり、利用者のチカラを発揮してもらう場面作りの大切さを職員は再確認しています。庭で収穫した旬の野菜も調理に使用しています。利用者の重度化等のこともあり調理参加が減少傾向にあるので、おやつ作りの場を増やし利用者と一緒に作っています。誕生日会は利用者の好きな食事を提供して楽しみにつなげています。バーベキューや流しそうめん大会も実施し、季節を感じながら食事を楽しんでもらいました。	これまで昼食時は、利用者と職員が隣同士に座り、明るく楽しい雰囲気のなかで一緒に食事をする風景が見られました。利用者の重度化等で毎回一緒に食事を摂ることが困難な現状があるかと考えられますが、週に1回からでも一緒に食事を摂られたらいいかでしょうか。和気あいあいとした会話の中から、新しい気づきが生まれ、その人らしい暮らしの支援がより向上することが期待されます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	木島病院の管理栄養士から、必要に応じて相談、指導を受けられるような体制をとっている。水分に関しても入居者の好みの飲み物を何時でも飲めるように冷蔵庫にはジュース、牛乳など常備している。むせ込みが多い入居者には、ゼリー状にして提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行っている。自身でできない方には、個別に口腔ケアを実施している。毎週1回歯科の往診あり。家族・本人の希望があれば、歯科衛生士による口腔ケアを実施している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	訴える事の出来ない入居者にも可能な限りトイレで排泄してもらえるようにトイレ誘導を行っている。失禁が多い方も行動などを分析し、排泄パターンを分析しカンファレンス、申送りで周知している。見守りが必要な方には、自尊心に配慮し、サポートを行っている	安易にオムツを使用しないように、1回でも多くトイレでの排泄を基本としています。排泄チェック表をもとに利用者一人ひとりの排泄状況を把握して気持ちよく生活できるよう援助しています。トイレの声かけも尊厳の尊重を大切に自立に向けた支援を行っています。		

己 自部 外	項 目	自己評価	
		実践状況	外部評価
		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄困難な利用者には主治医と相談し、本人に合った下剤でコントロールしている。状況に応じ、看護師に報告し、調整も行っている。飲食物も入居者の嗜好合わせて提供している	
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	順番など可能な限り平等に入浴をして頂くが一番に入りたいなどの希望があるときは説明し理解して頂く事もある。入浴が嫌いな入居者や、便失禁した入居者に関しては、時間に関係なくその時の状況に合わせて入浴してもらっている。	2日に1回を基本としていますが、希望があれば毎日入浴ができます。浴室には名前を記入した利用者持ち込みの好みのシャンプーやボディシャンプー・固形石鹸等が並び、入浴においても個別ケアに取り組んでいます。入浴を好まない利用者へは時間を置いたり声掛けの工夫をする事で支援しています。
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間は決めていない。一人ひとりの生活パターンに合わせてお世話をしている。日中も入居者の体力的なものも考慮し状態に合わせて休息してもらっている	
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服している薬を個別にカードに記入し変更があればその都度変更している。毎日の申送りに使用し、全員周知している。効能や副作用についても、別にファイルにし、いつでも見ることができる。	
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや料理参加など家事活動に参加してもらえるように心掛けている。習字や塗り絵が得意な入所者には作品を掲示板に飾り皆に見てもらえるようにしている。気分転換に外へドライブに行ったり歌を歌ったりしている。	

己	自部外	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気がいい日などは、庭でお茶会をしたり、法人内を散歩したりしている。帰宅要求から外に飛び出す入居者もいるが制止するのではなく付き添い見守り、状態を見て声掛け、一緒に帰るようにしている。買い物好きな入所者は近所のスーパーへ同行し行かれる。	コロナ禍で外出も思うように出来ない中、天気の良い日などは庭でお茶会をしたり、散歩等をしています。玄関も施錠していないので、帰宅欲求などがみられる場合は制止するのではなく見守りや付き添いを行い、状況を見て戻る事を促します。「行ってらっしゃい」と見送り、「お帰りなさい」と迎えることを大切にしています。今後は母体法人の車が空いている曜日にドライブを計画しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金や財布を持つことで安心する入居者には、家族に許可を得て本人に所持して頂けるようにしている。また、希望者は施設で預かり金を置いているため、買い物したい時に買うことができるようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい時は、公衆電話からいつでもかけられるように支援している。又、手紙や年賀状を出せるように支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間で過ごされていると、食事の匂いや、食器を洗う音などの生活音が聞こえてくる。居間のテーブルなどに、季節の花を飾っている。	玄関周囲には家族のボランティア協力により花が植えられ、利用者・訪問者も楽しむことができます。共有空間のリビングは広くゆったりとして、中央に大きなテーブルがあ、テーブルの上には花や自由に食べることができるように盛った果物籠があります。柱の陰には一人になれる場所作りの配慮もされています。壁には利用者と職員の写真や利用者作成の塗り絵・貼り絵などが展示されています。広いリビング内には畳み式の間を設けてあり、冬は炬燵で自由に寝転ぶこともできます。一角には公衆電話を設置し、利用者が家族や知人へ電話をかけ自由に話をする事ができます。オープンキッチンからは、ご飯の炊ける匂いがし、食事の準備の音が聞こえ、家庭的な雰囲気を作っています。		

己	自	部	外	項 目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53				○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者 同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をして いる	居間と居間の間には観葉植物を置き落ち着け るようにしている。また、自由に休んだり気の 合った入居者同士でおしゃべりしたり、思い思い に過ごせるよう、ソファを置いている。また、 畳コーナーも設置している。			
54	(20)			○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しな がら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人 が居心地よく過ごせるような工夫をしている	見学の時や入居契約時本人の馴染みの家具 や使い慣れた品物などを持ってきてもらえよう にお願いしている。	ベッド、テーブル、冷暖房機はホームの備え付け で、利用者はタンスやテレビ、椅子など使い慣れ たものを持ち込み居心地の良い居室となってい ます。また仏壇を持って来ている利用者もいま す。居室ドア横には一人ひとり違うマスコット付き のネームプレートが掛けられ、入り口にはプライ バシーを守るため一人ひとりこだわりの暖簾が 掛けられています。		
55				○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を 活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	入居者のできる事は、時間がかかっても待つこ とは大切にしている。又普段はできるがその時 の状態できない時もあるので、その時には、 プライドを傷つけないようお手伝いしている。 入居者が自然な形で家事手伝い等に参加でき るような環境作りを心掛けている。			